

# 銚子を元気に！



No. 1

平成25年3月17日発行

## 銚子を元気にする会

石上允康 岩井文男 加瀬庫蔵 桑村邦博 地下誠幸  
根本 茂 宮内和宏 宮内昭三 宮川雅夫

【連絡先】銚子市芦崎町355 ☎33-1348

### 市議会総務企画委員会

# 病院関連予算を全会一致で可決

## 病院と議会は「健全な対話」を続けています！

## 野平市長だけが「対立」をおおっています

銚子市議会の総務企画委員会（3月13日）で、銚子市立病院関連予算が全会一致で可決されました。「銚子市立病院への財政支援と病院存続を求める請願」も可決されました。病院と議会が歩み寄り、互いに理解し合える関係が築かれたことが可決につながったのです。

一方で、野平市長だけが依然として対立をおおっています。昨年9月・10月議会で病院の補正予算に反対した議員に対する攻撃を続けています。集会で議員の名前を見せて、まるで「市民の敵」と言わんばかりに、デフォルメされた情報を流し続けています。

昨年の「病院補正予算の否決」を受けて、病院と議会は真摯に話し合いました。「与えられた役割の中でベストを尽くし、協力し、市民のため、患者さんのために、よりよい病院をつくりましょう」と握手をしたのです。

なのに、いまだに「対立」をおおり続ける市長の意図は何なのでしょう。昨年の補正予算に反対した議員は「病院つぶしの議員」、自分だけが「病院を守る正義の味方」とでも言いたいのでしょうか。病院をつぶしたい議員など1人もいません。病院を政争の道具にしているのは野平市長だけです。

## 議員の過半数が市長不信任という異常な状態

「市民を平気で傷つける野平市政を変えなければならない！」と明確に意思表示している議員は11名（定数20名）です。現職市長が市民の代表である議員の過半数から

不信任を突きつけられることは異常な状態です。それほど、野平市政は信頼されていないということです。

## 私たちは越川信一さんと共に、市立病院の再生に全力を尽くします！

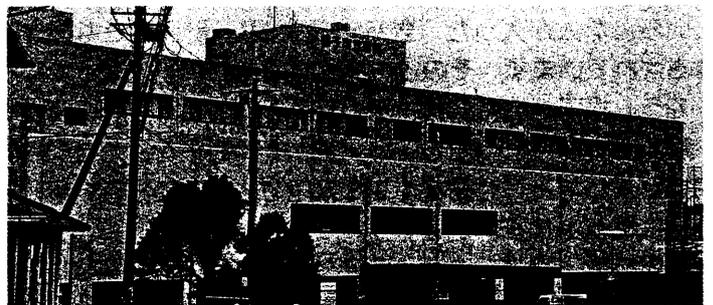
病院と議会の対話が大きく前進した理由は、野平市長の「お友達」の田中肇副理事長（銚子市立病院再生機構）が辞任したことです。遮断されていた情報が開示されるようになりました。議会の真意を直接伝え、病院スタッフの生の声を聞けるようになりました。「直接対話」が可能になったのです。

田中副理事長時代、野平市長は「赤字・補助金は青天井」と言ってきました。医師ではない田中副理事長が東京本部長給料と再生機構理事長報酬を二重に受け取っていたことについても、野平市長は「銚子の常識にはない（高額）報酬額」と述べましたが、内容はすべて秘密です。

かつての再生機構には、本部通帳や病院通帳のほかに、田中副理事長名義の通帳が存在していたことが明らかになりました。ここには人件費の1年分や広告料等の支払金額が一括で振り込まれていました。内容の説明を求めましたが、「民間の医療法人がやっていること」として説明はありませんでした。

議会はこれら不透明性の解消を求め、「予算修正」「議会決議」を4回にわたって全会一致で議決し、透明化を求めました。しかし不透明性の改善が図られず、2回の病院会計否決となりました。

昨年10月、田中副理事長が辞任し、理事全員が医療関係者に変わったことで、不透明性の改善が大きく前進しました。越川信一さんと共に、地域医療に高い志を持つ現在の再生機構（病院）の皆様と共に、私たちは市立病院の再生に全力を尽くします。



## 田中副理事長の辞任によって透明化が図られました

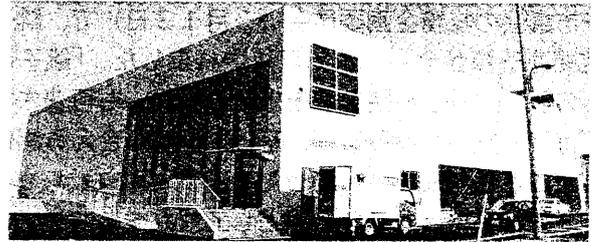
田中副理事長時代、「医師確保のため」として5年間で10億円を上限に契約したのが東京事務所です。実際の医師派遣は、(株)リクルートドクターズキャリアなど医師派遣会社へ丸投げで、医師との交渉は医師派遣会社の担当者が行っていました。その結果を、派遣会社の担当者と東京事務所の職員が打ち合わせをして、医師派遣が行なわれて

いました。東京事務所がなくてもよかったことが明らかになり、今年2月に東京事務所は閉鎖になりました。

田中副理事長が辞任し、理事全員が医師と看護師に変わり、東京事務所の閉鎖によって、医師派遣会社への丸投げが改善されました。議会の追求がなければ東京事務所は続いていたのではないのでしょうか。

## 高額なハコモノはいらない！ 市民負担の増大、人口流出に歯止めを

野平市長が市長になってから高額なハコモノが異常に増えました。結果的に近隣市と比べて、「国保料」や子育てに必要な「保育料」、子どもの医療費が高く、人口流出が起こっています。その中で野平さんの「お友達」だけが優遇されるような市政運営になっています。このような市政の転換が必要です。



## 野平市長は銚子市のために、 国からお金を持ってきてはいけません！ 話術にごまかされないで下さい！

高額なハコモノが異常に増えて、市の借金総額は545億円となりました。平成25年度の借金返済額は54億円(元金45億円・利子9億円)です。

この現実について、「野平市長は行政のプロ。国や県から補助金やお金をもってくるから大丈夫」という声を聞きます。しかしそのような事実はありません。大学誘致の時、補助金の半額(45億円)を県から持って来る旨の主張を

繰り返しましたが、県からの補助金はゼロでした。すべて銚子市の税金でまかなったことから明らかです。

野平市長は行政用語をたくみに使います。国の制度で誰が市長でも同じ補助金なのに、自分が取ってきたかのように思わせる話術をたくみに使います。話術にごまかされないようにしたいものです。

## 異常な契約実態！不可解な公金支出 (株)C・I・F 小倉氏と野平市長の関係は？

平成22年度に(株)C・I・F代表の小倉氏と旧十字屋跡地を含めた中心市街地の開発構想計画策定の契約を600万円で結びました。それは、「大学教授やコンサルタントやいろいろな人が入った(野平市長説明)」計画書となり、提出されています。その後、(株)松屋百貨店の子会社として(株)てうし横丁がつくられ、(株)C・I・Fに対して平成24年8月、中心市街地の空き店舗調査とその対策を求めた契約を結びました。契約書は575万円です。その調査結果が3月に提出される予定です。

岩手県出身の小倉氏と野平市長の関係は不透明ですが、いったん事業計画を作成しテナント募集に失敗した会社

(小倉氏)に、同じような調査依頼をすること自体が不可解です。このような市政の転換が必要です。

